

## 北海道札幌北高等学校

課程 定時制  
学科 普通科  
生徒数 293名

### 1 取組の特徴

「人間関係づくりやコミュニケーションスキルの育成を図る」ことを目的とし、次の点を重点事項として取り組む

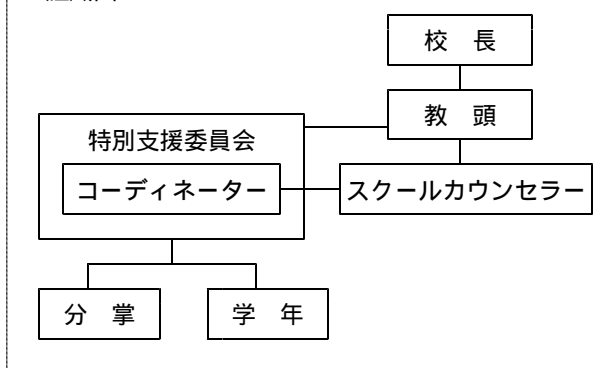
- 1 メンタルヘルスに関する取組
- 2 スクールカウンセラーを活用したコミュニケーション能力の育成を図る取組
- 3 スクールカウンセラーを活用した校内研修の充実

### 2 取組のねらい

次のような生徒が多く在籍し、個に応じたきめの細かい支援とケアが求められており、カウンセリングを通して生徒の自立を促していく。

- 1 特別支援教育の対象になる生徒
- 2 中学校時不登校で十分に学力のついていない生徒
- 3 他者とのコミュニケーションをとることが困難な生徒
- 4 家庭環境が劣悪で通学環境が整っていない生徒
- 5 様々な原因で生じる不登校生徒
- 6 様々な理由での中退者（特に高校1年生）

<組織図>



### 3 取組の経過

- 5月 教職員対象の「校内研修会」  
内容：「スクールカウンセリング」について  
講師：山本創氏  
（スクールカウンセラー）
- 5月 メンタルヘルス講話  
1学年はクラス毎、2・3・4年は学年単位で実施
- 7月 アセスメントの実施  
子ども理解支援ツール「ほっと」実施後、分析結果を教職員で共有
- 9月 グループワーク

- （6月～）個別カウンセリング
- 12月 ケース会議（事例研究）  
報告：山本創氏  
（スクールカウンセラー）
- 3月 アセスメントの実施  
子ども理解支援ツール「ほっと」実施後、アセスメントと比較検討し、分析結果を教職員で共有
- 3月 課題と成果を整理し、次年度へ向けた取組を検討

## 4 取組の内容

### 1 校内研修会

教職員を対象に、本校のスクールカウンセラーを講師として、「スクールカウンセリングの基本的な考え方」と題して、スクールカウンセラーの校内での役割、相談内容の種類、守秘義務と情報共有、相談システム等についてカウンセラーと教員との共通理解と共通認識を得た。



### 2 メンタルヘルス講話

生徒を対象に、本校のスクールカウンセラーが講話を行った。1学年では、クラス毎にカウンセリングに関する講話とメンタルヘルストレーニング（ストレスチェック）を実施した。2・3・4学年では、学年毎に実施する学年集会の際に、「カウンセリングとは何か」について講話を行った。

### 3 アセスメントの実施

1年生を対象に、子ども理解支援ツール「ほっと」を7月と3月に実施し、生徒個々の変化について分析を行った。

### 4 ケース会議（事例研究）

本校のスクールカウンセラーから、約半年間のカウンセリングに基づいた事例報告会を実施した。教職員間で情報の共有を図った。



## 5 次年度に向けて

### 1 成果

#### (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

中途退学者は、前年度に比較し大幅に減少した。特に、1学年での減少が顕著であった。

学年	1年	2年	3年	4年	合計
平成23年度	41	9	3	0	53
平成24年度	15	1	1	0	17

不登校生徒数は1年生の減少が大きく、全体としてやや減少した。

学年	1年	2年	3年	4年	合計
平成23年度	31	5	3	0	39
平成24年度	22	5	7	2	36

#### (2) その他の指標による評価

1日当たりの欠席日数は、昨年と比較し大幅に減少した。4学年以外の3学年での減少が顕著であった。

#### (3) 子ども理解支援ツール「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況

「ほっと」の結果からは顕著な変化は把握できなかったが、日々の教育活動の中で接する生徒の変化（表情が豊かになった。積極的な会話が増えた等）を感じ取っている。

#### (4) 生徒の変容した姿

様々な取組から、学校生活が非常に落ち着いている。授業規律の遵守、全校集会時の整列・聴取態度、特別生徒指導件数の激減等が挙げられる。

### 2 課題

(1) コミュニケーション能力の向上と社会性の獲得、それによる自立が促されること。

(2) 他者を思いやる心や言動の獲得、その結果豊かな学校生活をおくることできるような生徒が変容すること。

### 3 次年度に向けて

(1) スクールカウンセラーの計画的で効果的な活用に努める。

(2) 校内研修の充実を図るとともに校外研修への積極的参加を促し、教職員のカウンセリングマインドの一層の理解を深める。